

式辞

一雨ごとに暖かさが増し、校庭の木々の緑に春の息吹を感じる今日の佳き日に、広島市議会議員 若林新三 様、三宅朗充 様、本校の前身である安佐北高校卒業生の広島県議会議員 山形しのぶ 様をはじめとした、9名のご来賓の方々、さらにはPTA会長 弘法 真 様をはじめ、本校に所縁のある多くの方々のご臨席を賜るとともに、保護者・ご家族の皆様のご列席のもと、広島市立広島中等教育学校第十一回入学式を挙行できますことは、教職員一同大きな喜びであります。

ただいま、入学を許可いたしました百二十名の新入生の皆さん、入学おめでとうございます。本校を代表して心から歓迎申し上げます。

さて、本校は昨年創立十年を迎え、今年の11月29日には創立十周年記念行事を計画しております。このような記念すべき年に、晴れて入学生となられた皆さんに、私から三点ほど、お願いしたいことがあります。

一つ目は、これから始まる「市広」での学校生活に対して、前向きにそして積極的に頑張ってほしいということです。

本校には、校外学習、昇陽祭と呼ばれている文化祭、体育祭、合唱祭をはじめとした様々な学校行事があります。

特に体育祭などは、学年の枠を超えた「たてわり」クラスで行事を盛り上げていきます。先輩たちが一生懸命取り組む姿を見ながら、自分たちも負けないように楽しむという伝統です。学校行事も大切な「学びの場」であり、成長する貴重な機会です。失敗を恐れず、学校行事を大切にしてください。

二つ目は 校訓の一つである「修学」です。学校というところは、言うまでもなく学びの場です。最初は周りが賢く見え、自分だけがわかっていないと考え、時折、悲観的になってしまう生徒もいますが、自分がわかっていないところを知ることが、学ぶことの大切な第一歩です。悲観的になるのではなく、わかっていない部分があるから学ぶのだという謙虚さを持つことが大切です。この謙虚さこそが、実は吸収力なのです。

わからない部分や曖昧な部分をそのままにせず、自ら職員室に出向いて行って積極的に質問をする。隣の友人に、恥ずかしがることなく、教えてもらう。お互いに教え合い、反復し、自分のものとしていくことが重要なのです。もちろん、謙虚な姿勢と依存することは違います。まずは、自分の力でしっかりと考え、それをもとに自らの足でわからないところを解決していこうと努めてほしいと思っています。それが本校の校訓の一つである「修学」だと考えています。

三つ目は、仲間を大切にすることです。

教育における最大の環境は「人」だと言われています。どんな立派な建物や設備よりも、そこで出会う「人」との関わりが自分を成長させてくれます。本校の先生との出会い、そして何とんでも今、一緒に並んでいる仲間との出会い。本校に通う最大のメリットは、この

集団の中に身を置くことにあると言っても過言ではないと思います。

今はまだ全く知らない者同士が、6年間の中で絆を育み、切磋琢磨し、かけがえのない大切な存在となっていくます。縁あって同じ時に「市広」で学ぶこととなった巡りあわせに感謝して、ともに高め合う存在として仲間を大切にしてほしいと思います。

次に、保護者の皆様にも二つほどお願いがあります。

一つ目は、「適切な距離からお子様を見守ってください。」というお願いです。

お子様は本校での6年間で子どもから大人への階段を一步一步登って行かれます。時には失敗し、痛い目にあうこともあるでしょう。それでも、大人になるためには、困難を自ら受け止め、自らの力で判断し、自らの責任で対処していく必要があります。保護者として心配な部分もあるかと思いますが、信じて任せる部分を少しずつ増やしていくとともに、お子様を見守り、お子様が直面する大変さや悩みにも寄り添いながら、ここは、というところでは、保護者としての役割を果たす、そんな距離感を心がけていただきたいと思います。

もう一つは、「学校と家庭との連携・協力」についてのお願いです。

私たち教職員は保護者の皆様と共に手を携えて、お子様がしっかりと成長できるよう取り組んでまいります。そのためには、学校と家庭との連携・協力は欠かせません。是非、学校と家庭とが車の両輪のように、しっかりとかみ合い、大きな推進力となって、お子様を成長させていけるように、ご協力をお願いいたします。

結びに、新入生の皆さんの、今日から始まる広島中等教育学校での生活が実り多きものとなること、そして皆さんが本校での6年間を通して大きく成長されることを祈念いたしまして式辞とさせていただきます。

令和六年四月六日

広島市立広島中等教育学校

校長 横山 尚司